

# 「食道癌手術における誤嚥性肺炎に対する喉頭挙上術の効果」についての研究のお知らせ

2000年 4月1日～2015年 3月31日の期間に自治医科大学附属病院消化器外科で食道癌手術を施行された患者さんを対象とした研究を行っていることをお知らせします。

## 1. 研究の意義と目的

食道癌の手術において、術後誤嚥性肺炎は患者さんの経過に多大な影響があります。誤嚥性肺炎は手術に伴う反回神経麻痺や、食道癌の浸潤により止むを得ず神経を切除した場合に起こりえます。この誤嚥性肺炎を予防するため、手術時に喉頭挙上という手術を同時に行うことがあります。喉頭挙上術には下顎骨に固定する通常型と、舌骨のみ固定する簡便型の2種類があります。本研究では、通常型と簡便型それぞれの喉頭挙上術が術後誤嚥性肺炎に及ぼす影響を検討することを目的とします。

## 2. 研究の方法

2000年 4月1日～2015年 3月31日の期間に自治医科大学附属病院消化器外科において、食道癌に対して手術を施行された患者さんのうち、喉頭挙上術を同時に行われた方を対象に、診療の記録（カルテ）から以下の事項を調べます。

患者さんの診療録から抽出した情報（性別・年齢・診断日・食道癌手術前治療・食道癌臨床病期分類（TNM分類）・手術記録（手術日・手術所見・手術術式・再建臓器）・術後合併症（反回神経麻痺・誤嚥性肺炎・縫合不全）・抜管した日・食事摂取再開日・病理診断項目（組織型・深達度・リンパ節転移・脈管侵襲）・在院日数・転帰情報（生存情報・生存期間））

## 3. 個人情報の保護について

この研究を実施するにあたって、あなたの診療の記録（カルテ）から得られる情報から住所、名前等が削られ、患者さん個人が特定できないように符合をつける「匿名化」を行い、鍵のかかるキャビネットに保管致します。あなたとこの符号とを結びつける対応表は、研究責任者が鍵のかかる別のキャビネットに保管することにより、患者さん個人の情報を管理します。これを連結可能匿名化といいます。こうすることによって、診療情報の解析を行う研究者には、誰の診療情報を解析しているのか分かりません。

患者さん個人を特定する情報が公開されることはありません。調査対象となる患者さんお一人お一人へのご説明は致しませんが、ご自分の情報をこの研究に用いられたくないとお考えの場合にはお申し出ください。調査対象から省かせていただきます。この場合でも、診療や病院サービスにおいて患者さんへの不利益はございませんので、遠慮なくご連絡ください。なお、連絡が届いた時点で、すでに研究成果が発表され修正が不能である場合があります。

この研究は 2020年 3月31日までを予定しており、研究期間終了後は得られた情報は適切に廃棄致します。

この研究についてご質問などございましたら、下記までお問い合わせください。苦情については、自治医科大学臨床研究支援センター臨床研究企画管理部管理部門（電話：0285-58-8933）でも受け付けております。

連絡先：自治医科大学附属病院 消化器外科 教授 細谷 好則

電話：0285-58-7371 FAX：0285-44-3234